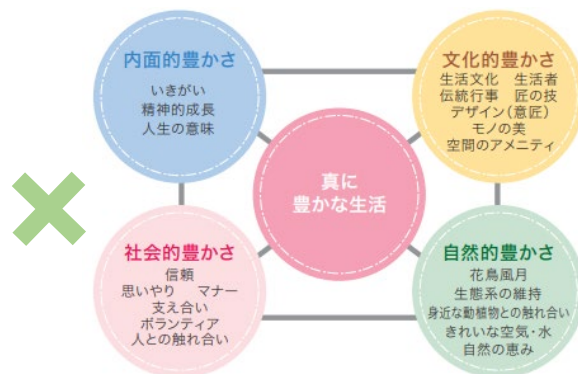


～ライフデザインとSDGs～

Life Design
×
SDGs

SDGs は「持続可能」な社会の構築を目指すための目標設定で、17項目からなる持続可能な開発目標 (SDGs) のことです。では、これらの目標はライフデザインとはどのような関係にあるのでしょうか。

その前に、ライフデザインとは何かを説明します。ライフデザインとは、一言で表現するなら、「日本人の未来のあるべきライフスタイルを構想する」ということですが、もう少し詳しく言うと、「これまでの大量消費・大量廃棄型のライフスタイルを脱し、自然との共生、他者とのつながり、モノの美の享受、個人の生きがいを獲得し、以って高い生活の質 (QOL) = “真の豊かさ” を実現するような新しいライフスタイルを構想すること」であり、そこでは持続可能性が強く意識されます。



ライフデザインが取りあげるライフスタイルは、私たちの着る・纏う、食べる、住まうという生活を、選択する、買う、作る、直す、管理する、捨てる、譲る、売るという行為をもって営むことや働く、遊ぶといった活動から、さらにはある場所で家庭を営み、家族を持ち、地域とつながるといった人間関係の構築などから成り立っています。ここから SDGs が広い範囲においてライフデザインに結びつきそうだということが分かることでしょう。



～ライフデザインとSDGsの各目標～

では、SDGsの各目標とはどのような関係を持っているのでしょうか。

例えば、「住まう」を取り上げると、持続可能な住まい方とは、国内の木材を使用して（地産地消、CO₂取り込み）、家の快適性を保つための伝統的な材料・技術やパッシブソーラーなどの考え方を採りいれながら（エネルギー低使用、化石燃料低使用）、木の成長サイクルより短いサイクルで廃棄することなく長く積み続け（CO₂固定）、次の世代に引き継ぐ（人と場所、世代と世代をつなぐ）という住まい方が想定されますが、これは**目標7「エネルギーをクリーンに」**、**目標15「緑の豊かさを守ろう」**、**目標13「気候変動に具体的な対策を」**や**目標11「住み続けられるまちづくり」**に関係します。



また家庭・地域のあり方や働き方を考えることは、社会集団における多様性や公平性を考えることになるため、**目標5「ジェンダー平等を実現しよう」**、**目標10「人や国の不平等をなくそう」**、**目標16「平和と公正をすべての人に」**が関係してきます。

そうした中で、ライフデザインにもっとも強く関係するのは、**目標12「つくる責任 つかう責任」**です。現代のライフスタイルは「つかう」ことの中に「利便性」を追い求める高度消費社会によって成り立っていて、このことが大量消費・大量廃棄を伴うものであることから、このライフスタイルを乗り越えようとするのがライフデザインの目標となっているからです。

生活者視点からのSDGsの必要性

ところで、SDGsのそれぞれの目標はさらにいくつかの詳細な「ターゲット」に分かれています。それらは政策的視点から設定されているため、そこには生活者的な視点が盛り込まれていません。それは、個々の生活者のレベルの目標設定が現実には不可能だからという事情もあることでしょう。

しかし、現在の世界の問題は、どこで作られたどんなものを買って、どんな使い方をして、どう楽しんで、どんな捨て方をするのか、どんな働き方を、どう遊ぶのか、そしてどこに住んで、どんな家庭を築いて、どんな近隣関係を持つのかなど、日々の私たちの生活の結果が積み重なって引き起こされたという面が強いのは間違いないでしょう。したがって、SDGsが本当に達成できるかどうかは、これを政府や企業の問題とみるのではなく、私たち自身が「生活」に引き付けて考え、**当事者意識**をもって行動できるかどうかにかかっているといってもいいでしょう。



まさにそのことを考えようするのがライフデザインですから、ライフデザインがSDGsのいずれかの目標に関係しているということよりも、そうした目標やその背景にある理念を実際の生活行動にどのように反映させるかを構想するという、SDGsの先を担おうとしているという意味においてSDGsと関係しているのです。つまり、ライフデザインは、「“持続可能性”を“生活”において実践する方法を考える」ということなのです。

～多様なライフデザイン学科の教育・研究とSDGsの関連～

以上から、ライフデザインとSDGsの理念的な関係についておおよそ理解いただいたと思いますが、もう少し具体的な活動との関連を知っていただくべく、最後にライフデザイン学科各研究室の多彩な教育・研究活動のうちSDGsと関連性の高い例を紹介しましょう。

<研究領域>

○文化的豊かさ

▷生活文化の価値とその継承 (ライフマネジメント研究室)

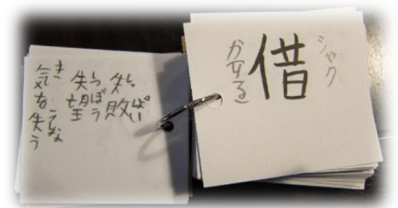
地方では、個性豊かな生活文化（食・住・伝統工芸品・街並み・行事・遊び等）の継承が危うくなり、都市部では、価値ある古い建物や味わいのある空間が喪失されていますが、これは人々のアイデンティティの喪失を意味します。そうしたもののや場所が持つ価値（真正性）とは何か、観光などによってその価値を継承するにはどうしたらよいかなどについて研究し、提言しています。



○内面的豊かさ

▷日本にルーツをもつ海外育ちの子ども日本語習得を支援する (文化・発達心理学研究室)

日本語は、日本で生まれ育つ子ども達だけでなく、日本にルーツをもつ海外育ちの子ども達にも学習されています。国際結婚家族や海外駐在家族の子ども達はその代表例ですが、接触の質量に限られる日本語の読み書きの習得は、それほど容易ではありません。現地語・現地文化にも日本語・日本文化にも愛着をもっている子ども達は、両者を架橋する貴重な存在です。私は、2009年から、日本を離れて日本語の読み書きを習得する子ども達を支援する研究プロジェクトを実施しています。



○自然的豊かさ

▷フードマイレージのない国産コーヒー・ワインの生産手法の探求 (環境教育学研究室)

コーヒーやワインは嗜好品ですが、私達の生活を彩る重要な農産物。しかしそれらの多くが、遠い海外から輸入されています。実は、日本においてもこれらが生産されているのです。全国で増えつつある耕作放棄地を活用して、都市住民でも携わることができる持続可能な生産手法の在り方について探求しております。



▷水辺の生物多様性を守るための調査研究 (生物環境保全学研究室)

川や湖などの淡水生態系は、人の生活圏に比較的近いところにあるため環境変化がもっとも進んでいる生態系の一つです。生息環境の改変にともなってその生物多様性も失われつつあり、メダカやウナギといった私たち日本人にとって馴染み深い淡水魚もいまや絶滅が危惧される状況です。こうした水辺の生物多様性の現状を把握し、その保全に役立つため、日本各地の川で淡水魚とその生息環境の調査を行っています。



<教育領域>

○文化的豊かさ

▷日本古来の住文化の魅力をほりおこす (住文化研究室)



スクラップ&ビルドからサステナブル社会への転換のなかで、地域に根付いた古い住まいを見直し、使い続けることが求められています。ゼミでは、日本の気候風土や歴史文化によりつちかわれた住文化を学んでいます。学生の視点を通して、住まいにおける多様な視点、風通しや採光、色彩や装飾、地域における暮らし方などを調査し、地域のまちづくりに活かす研究を行っています。

▷染織文化を継承する意味を考える (工芸デザイン研究室)

世界中で民族衣装を着なくなり、衣服は均一化しています。その地域独特の織染技術は衰退していますが、布を商品化したフェアトレードは伝統技術を継承し、持続可能な社会に貢献しています。しかし売るために作られる商品はトレンドを反映し、伝統とは程遠い商品を生み出してもいます。技術の継承と経済活動。どちらも活性化させるにはどうしたらよいのか。難しい問題です。



▷これからのパッケージデザインについて考える (デザイン文化研究室)

持続可能な自然環境の保全を見据えて、日本においても脱プラスチックの動きが加速しています。プロダクトデザイン演習では、現在商品として流通している様々なパッケージについて造形的な面から理解を深めると同時に、その素材にも着目し、より環境にやさしいパッケージの提案についても取り組んでいます。



○社会的豊かさ

▷家庭と職場におけるジェンダー平等を考える (家族社会学研究室)



現代では「男性も女性も、仕事も家庭も」という考えを支持する人が多いのですが、実際の行動は「男性は仕事、女性は家庭と仕事」となっています。この現状は女性の家庭と仕事の二重負担となり少子化の一要因でもあります。ゼミでは「ジェンダー視点をもって学び、話そう」をモットーに女性と家族、働くことについて研究を行っています。

▷SDGsを授業で実践する (国際生活文化研究室)



現代日本の大学生の「貧しくないのに、SDGsに反する」暮らしの問題を考えます。SNS 依存や過剰なアルバイトで十分な睡眠がとれないような生活習慣を変える(「すべての人に健康と福祉を」)。自らテーマを見つけて主体的に学ぶことで成長する(「質の高い教育をみんなに」)、外食やコンビニ、PET ボトル使用を控え、自然な暮らしを目指す(「つくる責任 つかう責任」)

—そんな学び=実践の中で、大量生産大量消費社会から一歩抜け出すことを目指します。

▷ユニバーサルデザインとSDGs (人間情報科学研究室)

年齢や障害の有無、国籍、性別に関わらず、すべての人にわかりやすく、使いやすいデザインのことをユニバーサルデザイン (UD) と呼びます。SDGs の目標達成の中では「誰一人取り残さない」が強調され、UD の考え方と共通するものです。本研究室では、個々の製品だけでなく街全体の暮らしやすさも評価しています。

